地震ハザードマップ

地域の危険度マップ

上宝地域

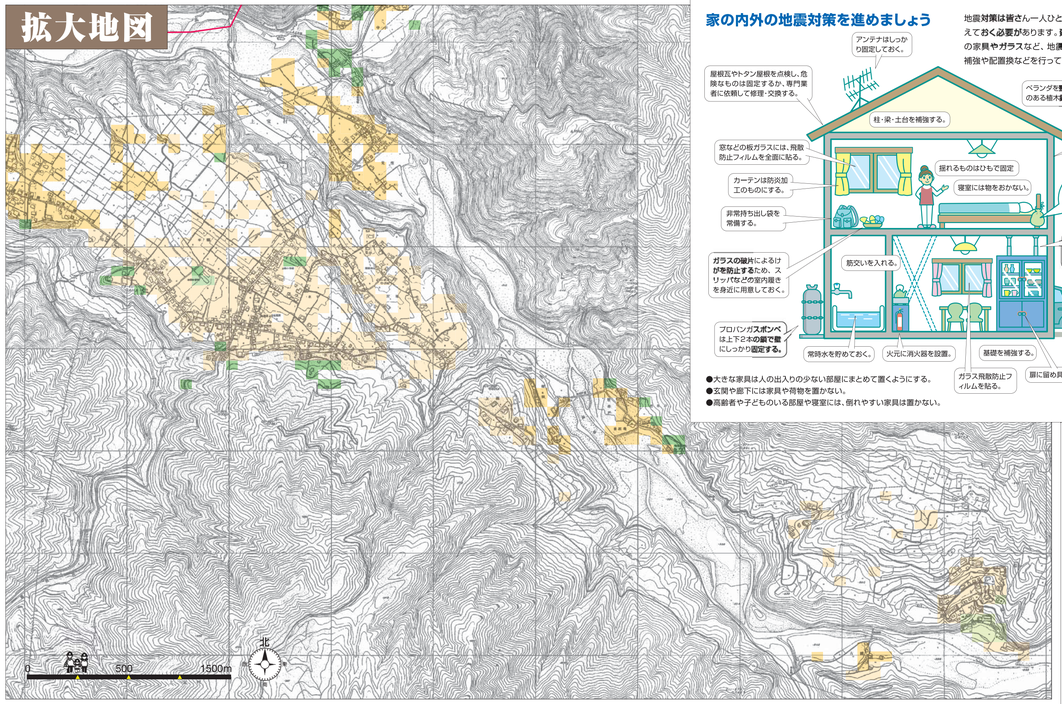
危険度マップ・全壊率 凡例

- 危険度1　0％以上～ 3％未満
- 危険度2　3％以上～ 5％未満
- 危険度3　5％以上～ 7％未満
- 危険度4　7％以上～10％未満
- 危険度5　10％以上～20％未満
- 危険度6　20％以上～30％未満
- 危険度7　30％以上

「危険度マップ」の見方

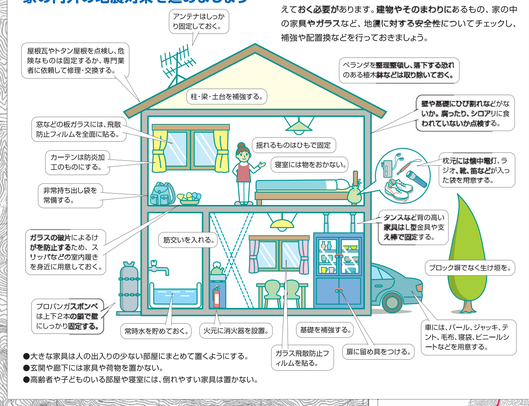
「危険度マップ」とは、裏面の「揺れやすさマップ」で示した強さの地震が起きたとき、建物の被害予想を「危険度」として表示したものです。地図上には、建物が存在するメッシュ（約50m四方）についてのみ着色しています。

拡大地図



家の内外の地震対策を進めましょう

地震対策は皆さん一人ひとりあるいは家族が協力して普段から備えておく必要があります。建物やそのまわりにあるもの、家の中の家具やガラスなど、地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換などを行っておきましょう。



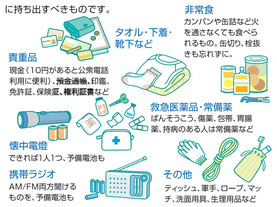
- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
- 玄関や廊下には家具や荷物を置かない。
- 高齢者や子どもがいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。

非常持ち出し品を用意しましょう

●被災地に救援物資が届くまでには3日かかるといわれています。持ち出し品はこの3日間に必要なものを厳選しておきましょう。

一次持ち出し品(例)

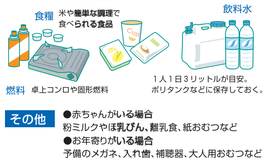
一次持ち出し品は大地震が発生して避難するとき、まず最初に持ち出すべきものです。



●家族構成など必要に応じて準備しましょう。乳幼児やお年よりなどで特に必要なものがあればつけ加えておきましょう。
●非常持ち出し品は定期的に点検をし、保存状態や使用期限などをチェックして、必要に応じて新しいものに交換しましょう。

二次持ち出し品(例)

大災害時に、組織的に救援・復旧活動が軌道に乗るまで、最低3日間は自活できるようにしておきましょう。



その他
- 赤ちゃんがいる場合
  粉ミルクやほ乳びん、離乳食、紙おむつなど
- お年寄りがいる場合
  予備のメガネ、入れ歯、補聴器、大人用おむつなど

家族防災会議を開きましょう

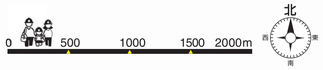
いざという時に家族があわてず行動できるよう、家族防災会議を開いて、家族一人ひとりの役割分担や対処方法を決めておきましょう。

飛騨市

丹生川地域

奥飛騨温泉郷地域

拡大地図範囲



耐震診断・耐震補強工事の助成制度について

高山市では、地震に強い安全なまちづくりを目指すため、市内の建物所有者を対象とした「耐震診断」、「耐震補強工事」の助成制度を設けています。**この制度を受けるには**、要件がありますので、詳しくは高山市**基盤整備部都市整備課**までお問い合わせください。

住宅の耐震性について

地震における木造住宅の倒壊率は、古い住宅ほど高く、耐震壁の少なさやバランス配置の悪さ、老朽化等が倒壊の原因であるといわれています。特に、**昭和56年5月31日以前に着工**している場合や平面の形状が不整形**な場合等**では、**耐震性が低い**傾向にあります。心当たりがある方は、**専門家**による「耐震診断」を受けましょう。